



TITLE:

閉会の挨拶

AUTHOR(S):

小澤, 和恵

CITATION:

小澤, 和恵. 閉会の挨拶. 日本外科宝函 1989: 38-38

ISSUE DATE:

1989-12-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204412>

RIGHT:

閉会の挨拶

京都大学外科学教室第二講座教授 小澤 和 恵

ただ今、御三人の先生方から大変すばらしい講演をたまわり、強い感銘を受けた次第でございます。私達の教室の開講90周年を記念するに誠にふさわしいものでございました。同門の1人として、厚く御礼申し上げます。田辺先生、出月先生、杉町先生、本当にありがとうございました。さて、大学の使命は教育、診療、研究である事は申すまでもございせん。特に外科といえどもその根底は科学でありますし、妥協、かけひきなどが入る余地は全くなく、まして国境もございせん。大学に学ぶものはその期間が長短に差あれ、人を愛する心と科学をする心を厳しくひたすら鍛え上げていく事が、絶対的な必要条件でございます。私は物事をいかげんにせず、またじっくりと筋を通す事を大事なものと、若い外科医にそういうような気持をつちかう事に努力しているわけでございます。さらに目の前の患者の生命をあずかる点では外科医ほど severe な仕事は他にございせん。社会の第一線でご活躍の先生方と、常にお話をしているところでございますが、やはりその中には人にゆずる事、人を思いやるという事が根本であるという事を私自身しみじみと感じておりまして、先輩の先生にもその事を常に申しているわけでございます。本日のご講演をうけたまわりまして、ただ今申しました事が非常に重要であるという事を改めて痛感致している次第でございます。これを足がかりにいたしまして、教室の一層の発展を心から記念し、開講90周年記念講演の閉会のご挨拶としたいと思います。皆様、どうもありがとうございました。